

# 公開実用 昭和62- 178632

③ 日本国特許庁(JP)

④ 実用新案出願公開

⑤ 公開実用新案公報(U) 昭62-178632

⑥ Int. Cl.<sup>4</sup>

H 04 B 1/08

識別記号

庁内整理番号

N-6745-5K

A-6745-5K

⑦ 公開 昭和62年(1987)11月13日

審査請求 有 (全頁)

⑧ 考案の名称 浴室用ラジオ

⑨ 実 願 昭61-65648

⑩ 出 願 昭61(1986)4月30日

⑪ 考 案 者 岡 村 俊 彦 東京都文京区本郷2丁目27番17号 株式会社ユニックス内

⑫ 出 願 人 株式会社 ユニックス 東京都文京区本郷2丁目27番17号

⑬ 代 理 人 弁理士 地 曳 寛 治

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

浴室用ラジオ

### 2. 実用新案登録請求の範囲

所定の周波数帯域の電波を受信するラジオ受信装置を内蔵せしめたケース本体の一側に露出させて少なくとも防水処理を施した電源ON-OFFと音量調節とを兼備したスイッチ付ボリュームとチューニング摘みとの二部材を設け、かつ他側にケース本体内に組み込んだスピーカの放音孔を設けた浴室用ラジオに於いて、前記ケース本体の適宜位置に係止部を設け、該係止部をケース本体を支承すべく構成した支承部材に回転可能に係止せしめたことを特徴とする浴室用ラジオ。

### 3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は入浴に際し、浴室に持ち込んで希望するラジオ放送等を聴くことが出来る浴室用ラジオに関するものである。

〔従来技術〕

355



浴室は周知の如く他の部屋に比べ高温で、かつ湿気（湯気）の非常に多い所である。従って、入浴をしながらラジオ放送を楽しもうとしても肝心ラジオ受信機の多くが、そうした高温、多湿に充分に耐えうる構造として製作されていないため浴室にラジオを持ち込めないのが実情である。

従って、これまで入浴をしながら目的とするラジオ放送を楽しもうとする場合は、前述した如くのラジオ受信機（小型のもの）を、例えばビニール袋等に入れて放送を聴くとか、或いはラジオ受信機を浴室外に置き、これよりリード線を延ばしスピーカのみをビニール袋で包み所定の放送を聴くといった手段が取られている。しかし、上記のラジオ受信機の全体をビニール袋等で包んで浴室内に持ち込む方法のものは浴室が高温、かつ多湿であるためビニール袋の内部に直ぐに湯気が入り込みラジオ受信機を湿らせてしまい、ラジオ受信機の寿命を著しく短くしてしまうと言った問題と、同時にラジオ受信機の全体をビニール袋で包むものであるため放音部であるスピーカをも包むこと



となつてしまい音声効果を著しく損なわしめ、どのような会話乃至音楽等が放送されているのか鮮明に理解出来ないと言つた問題があつた。

一方前記のラジオ受信機を浴室外に置いてスピーカのみをビニール袋等で包んで浴室内に持ち込む方法によるものはラジオ受信機自体を浴室外に置くものであるから、ラジオ受信機自体に対し湿気等が付着することによる不都合は生じないが、放音部であるスピーカについては、前述の如く湿気を防護するためビニール袋で包むものであるから、前述した例の放音効果と同様に音声効果を著しく損なわしめ、どのような会話乃至音楽等が放送されているのか鮮明に理解出来ないと言つた問題は依然として残されたままであつた。

〔問題点を解決するための手段及び作用〕

本考案は上記の問題点に鑑み、所定の周波数帯域の電波を受信するラジオ受信装置を内蔵せしめたケース本体の一側に露出させて少なくとも防水処理を施した電源ON-OFFと音量調節とを兼備したスイッチ付ボリュームとチューニング摘み



との二部材を設け、かつ他側にケース本体内に組み込んだスピーカの放音孔を設けた浴室用ラジオを構成すると共に、前記ケース本体の適宜位置に係止部を（一体的又は別個に）設け、該係止部をケース本体を支承すべく構成した支承部材に回転可能に係合せしめることによって、ラジオ受信機自体を浴室内に持ち込むことができるようになり、かつケース本体を回転することによってケース本体の一端に設けたスイッチ付ボリューム乃至チューニング摘みと、他側に設けたスピーカの放音側の方向を変換できるようにすることによって、例えば洗髪時のようにお湯を使用している時は放音部側を下に向け、かつ浴槽に浸っているような場合は放音部を上に向けて使用できるようにし、以て防水効果と音響効果とが最良となり、しかもラジオ受信機自体の機能を損なわせることが無いようにした浴室用ラジオを提供しようとするものである。

（実施例）

第1図a、b、第2図及び第3図a、b、cは



本考案に係る浴室用ラジオの一実施例を示す説明図である。

同図中 1 は内部にラジオ受信装置を組み込んだケース本体（全体形状を厚みを持たせた略小判型乃至楕円形状をした石鯨タイプ）であり、2 は前記ケース本体 1 の一側（上面）の左寄りに露出して設けた電源 ON-OFF と音量調節を兼ねたスイッチ付ボリューム、3 は前記スイッチ付ボリューム 2 と同じ側の右寄りに露出して併設したチューニング摘みである。4 は前記ケース本体 1 の他側（下面）に形成した放音孔（第 3 図 a 参照）である。5 は例えば合成樹脂等で成形した前記ケース本体 1 の側周に嵌着して取り付けるケース保持具であり、このケース保持具 5 に対する前記ケース本体 1 の嵌着は第 1 図に点線矢印で示す如く移動して嵌着保持される。

ところで、前記ケース保持具 5 に対するケース本体 1 の取り付けは、ケース本体 1 の一側の一方に成形した凹部 6 に前記ケース保持具 5 の上縁に突出成形した突片 7 を嵌合して、嵌着状態に於い

て両者が移動することがないように構成されている。又、前記ケース保持具5の長手方向外周縁の相対する位置であってやや上方位置には、図に示す如き係止部8、8が一体的に突出して成形されており、これら両係止部8、8は前記ケース本体1を第2図に示す如く、例えば、浴室用のシャンプ容器9にセットするに当たり、シャンプ容器9（ケース本体1の支承部材を構成）に形成した係合部9a、9aに回転可能に嵌合せしめられ、図に示す如くの状態に於いて前記ケース本体1が前記両係止部8、8を軸として少なくとも180度回転することができるようになっている。第2図は前記ケース本体1がチューニング摘み3の部分が上方に向くように回転せしめて取り付けられた状態を示したものである。

同図中10はシャンプ、11は前記シャンプ10の収納凹部である。

尚、上記の実施例ではシャンプ容器9に形成した係合部9a、9aに嵌合する係止部8、8を第2図及び第3図cに示す如くケース保持具5の周



縁に成形するに当たり上方に若干変位せしめて設け、例えばケース本体 1 をシャンプ容器 9 に取り付けた場合ケース本体 1 内に組み込んだラジオ受信装置の上面側（チューニング摘み側）が放音孔 4 側に比べ重量的に重いのを利用して放音孔 4 側が上方に向けられている場合に於いてセット状態が安定に保持されるように構成しているがこれに限定されるものではなく、例えば前記係止部 8、8 のネック部に小さい突起等を形成し、かつ前記係合部 9 a、9 a 側にその突起が嵌合する小さい凹部等を形成してケース本体 1 の回転角度が所定位置に規制できるようにしたり、或いはクリックストップ機構を設けること等も自由に採用することができる。

又、前記の構成ではケース本体 1 内に組み込むラジオ受信装置につき防水処理等を施すべく説明しなかったが、本考案に於ける前記ラジオ受信装置も防水処理を施しているのは勿論である。

上記の実施例の如く構成した浴室用ラジオによれば、ラジオ受信装置をケース本体 1 内に防水処



理を施して組み込むと共に、ケース本体1をシャ  
ンプ容器9に対して回転可能に取り付けたので、  
ラジオ受信装置の電源をON-OFF、音量調節  
及びチューニングをする場合は勿論のこと、ラジ  
オで音楽、野球放送等を聴きながら洗髪するよう  
な場合はケース本体1にお湯等が必要以上に飛散  
するので、前記ケース本体1を上面（第2図に示  
す如くセット）に向けて使用すればケース本体1  
にお湯等が多く飛散するようなことがあってもラ  
ジオ受信装置自体にお湯が浸透するようなことは  
皆無となり、ラジオ受信装置が水によって損なわ  
れるようなことは起こらない。一方浴槽に入り体  
を温めるような場合には放音孔4の側を上方に向  
けて使用することも出来るのでスピーカから放音  
される音楽、野球放送等は非常に良い音質で聴く  
ことができ非常に便利である。

〔考案の効果〕

本考案は以上説明した如く、所定の周波数帯域  
の電波を受信するラジオ受信装置を内蔵せしめた  
ケース本体の一侧に露出させて少なくとも防水処

理を施した電源ON-OFFと音量調節とを兼備したスイッチ付ボリュームと選局用チューニング摘みとの二部材を設け、かつ他側にケース本体内に組み込んだスピーカの放音孔を設けた浴室用ラジオを構成すると共に、前記ケース本体の適宜位置に係止部を（一体的又は別個に）設け、該係止部をケース本体を支承すべく構成した支承部材に回転可能に係合せしめることによって、ラジオ受信機自体を浴室内に持ち込むことができるようになし、かつケース本体を回転することによってケース本体の一侧に設けたスイッチ付ボリューム乃至チューニング摘みと他側に設けたスピーカの放音側の方向を変換できるようにしたので、例えば洗髪時のようにお湯を使用している時は放音部側を下に向け、かつ浴槽に浸っているような場合は放音部を上に向けて使用でき、しかも防水効果と音響効果とが最良となり、ラジオ受信機自体の機能を損なわせることも無い。

又、構成が非常に簡単であるから組み立、製造が極めて容易でしかも非常に安価に提供すること



ができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図a及びbは本考案に係る浴室用ラジオの全体を示す斜視図、第2図は同上浴室用ラジオの使用の状態を示す斜視図、第3図a、b及びcは同上浴室用ラジオの表形状、裏形状乃至側部形状の一実施例を示す説明図である。

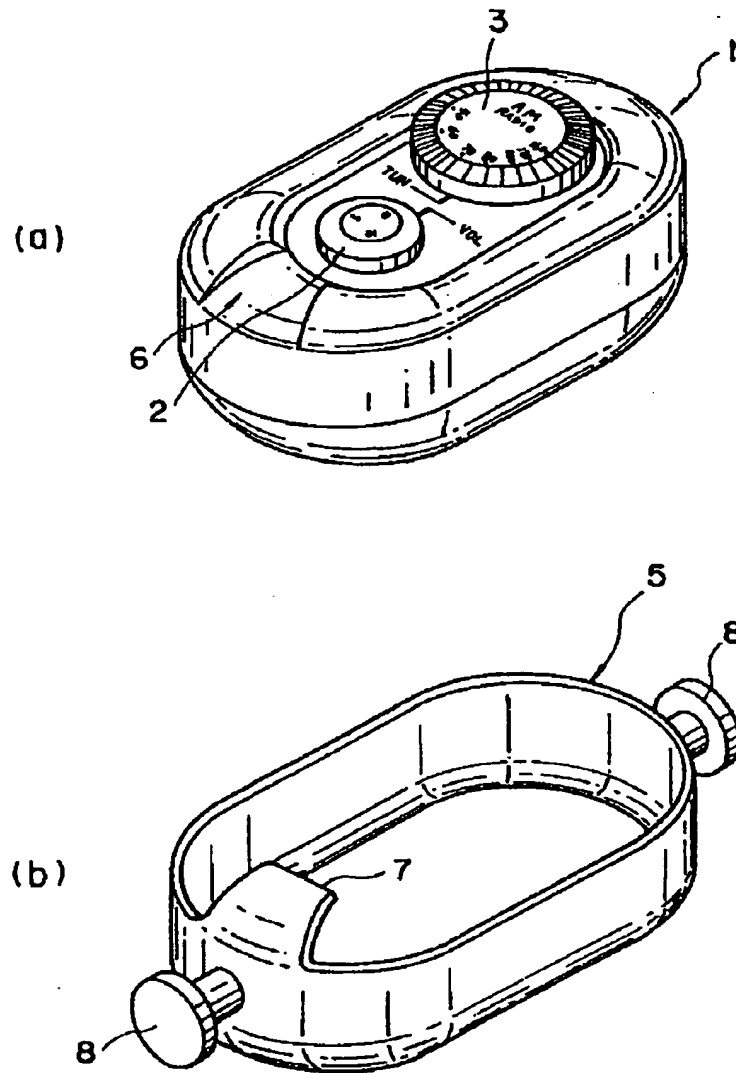
1…ケース本体、2…スイッチ付ボリューム、3…チューニング摘み、4…放音孔、5…ケース保持具、6…凹部、7…突片、8…係止部、9…シヤンプ容器、9a…係合部。

実用新案登録出願人 株式会社 ユニックス

代理人 弁理士 地 曳 寛 治



第 1 圖

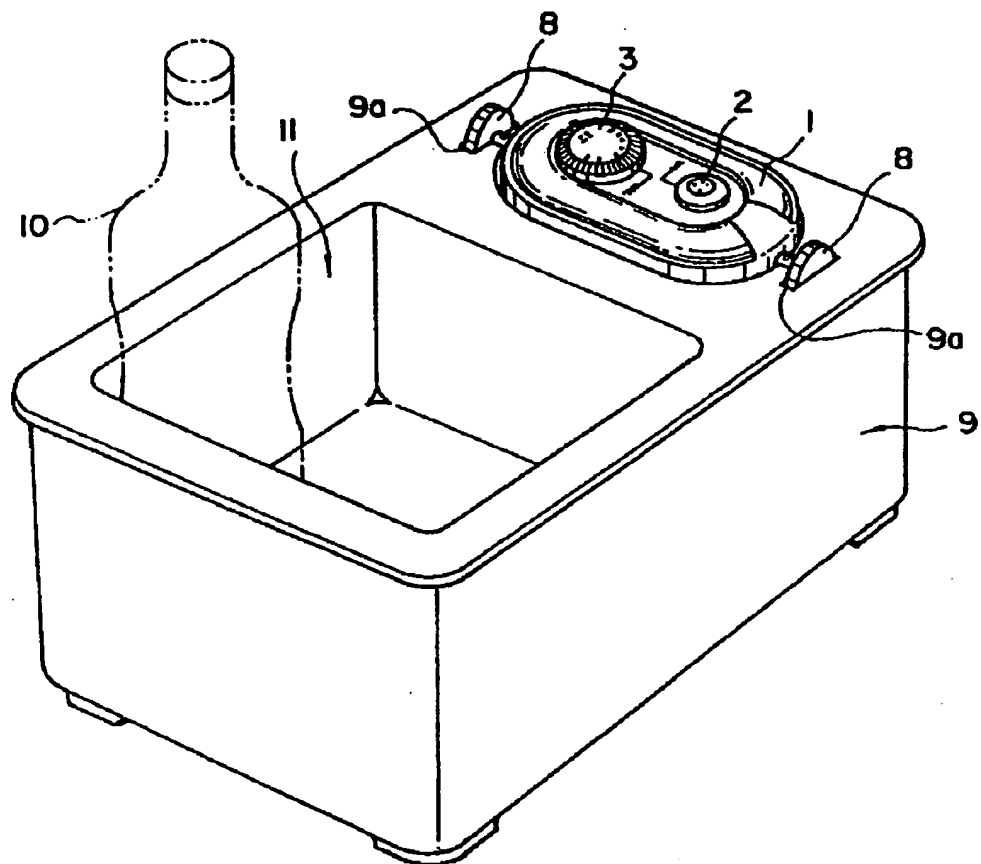


365

代理人 余聖士 其 豐 治

B 00251

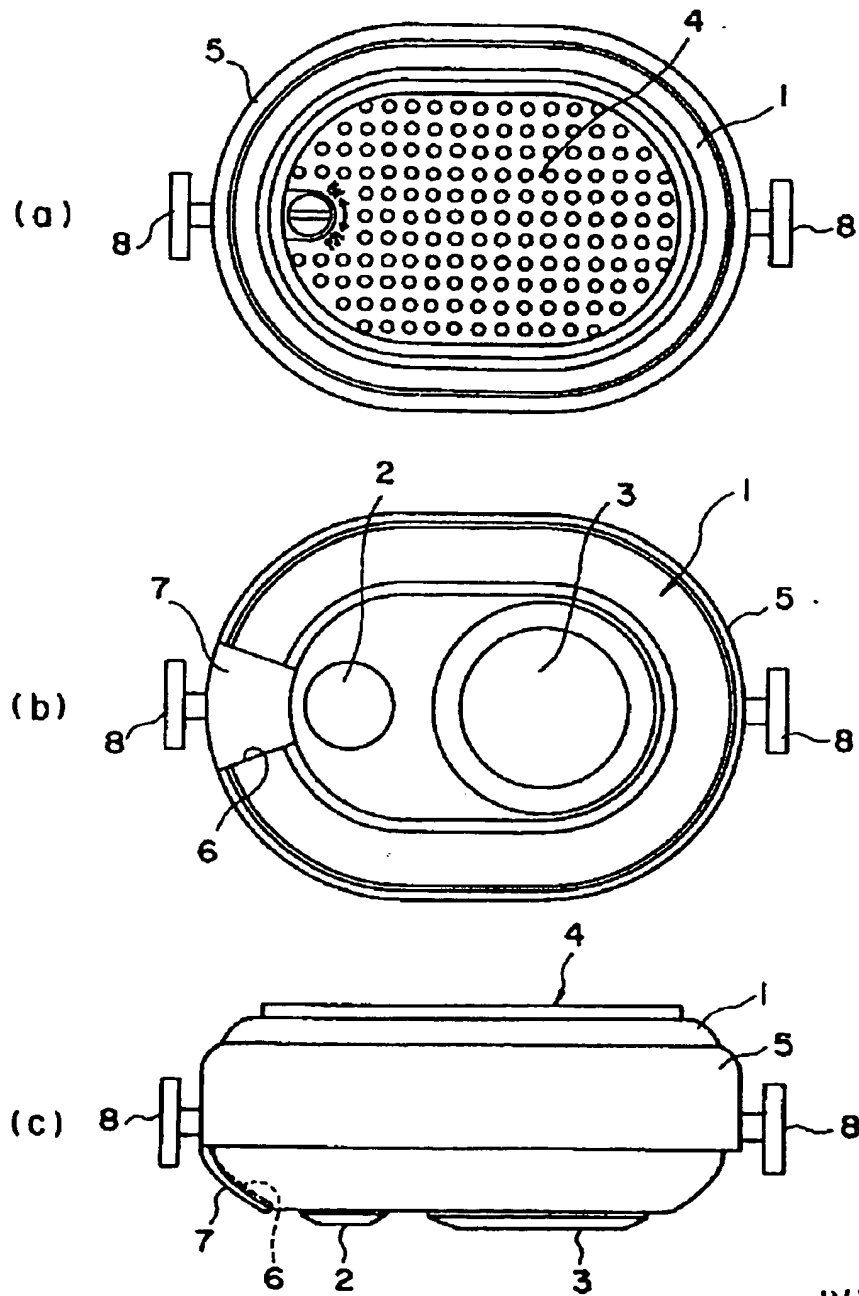
第 2 図



366

代理人 弁理士 辻 史 宣 様  
電話 〇三 〇八三二

第 3 図



367

1986-11-18

1986-11-18

B 00253